

開発協力の 現場から

Artist in Project 現場奮闘記 －共感革命の舞台裏、ドミニカ共和国での挑戦

坂口 幸太（JICA ドミニカ共和国事務所／ハイチ支所 所長）



「AgriCoolTure（魅力的な農村づくりと発信）」／「Vamo Chequeo（健康診断に行こう！）」／「Biwako TF（琵琶湖の経験を使った湖沼環境保全）」／「World Bon Bon Project（平和を創る世界盆踊り）」

国際協力の世界では見慣れないような単語が並ぶが、上述の4つのサブプロジェクトを軸に展開された「Artist in Project」は、国際協力機構（JICA）が2022年度に始動させた新規事業である。アーティストの感性や伝える能力を国際協力の現場に持ち込み、共創と革新、そして文化の還流を実現するという壮大な挑戦だった。

映画監督、舞踊家、建築家、フレグランスデザイナー、モデル、俳優、劇作家、映像作家……一見国際協力とは関係なさそうな、多様な専門性を持つアーティストたちが、国際協力の現場に飛び込み、共感革命を巻き起こした。

その舞台のひとつが、カリブ海に浮かぶドミニカ共和国。ここで繰り広げられたドラマは、報告書には書ききれない「現場の物語」として、今ここに記される。



写真1 和チャカバーナデザイナーとJICA ドミニカ共和国事務所員（写真はすべてJICA提供）

香りでつなぐ国際協力

－瀬間春菜さん、ドミニカ共和国での挑戦

広告代理店、商社、メーカーと、華やかなキャリアを経て、瀬間春菜さんはフレグランスデザイナーとして独立した。天然由来の香りを抽出し、調合し、デザインし、商品化する技術と経験を持つ稀有な存在。東京五輪のVIPルームや「星野リゾート」エントランスの香りを手がけるなど、個の力で未来を切り拓いている。そんな彼女がArtist in Projectのメンバーとしてドミニカ共和国へと導かれた。

・香りの宝庫、コンスタンサ

2023年11月、瀬間さんは約3週間ドミニカ共和国に滞在。何が起こるのかというワクワク感と、何か起こさなくてはならないという緊張感の中、日系移住地のある農業地域・コンスタンサにおいて、地元の人は素通りしてしまうような場所に、貴重なハーブや柑橘類が自生していることを発見。香りの宝庫が、そこにはあった。

一方、サンティアゴの中小企業支援機関では、女性起業家たちが工夫を凝らしたフレグランス商品を紹介してくれた。しかし、それらの多くは化学的に生成された香りで、天然由来のものはなかった。

帰国後、瀬間さんはコンスタンサの植生や香りを思い出しながらフレグランスを調合。コンスタンサ出身の駐日ドミニカ共和国大使館のロベルト高田大使から大絶賛の声を受け、自信を深めた。

・文化の壁を越えて－エタノール騒動

そして2024年、瀬間さんは第2回ドミニカ共和国渡航へ。今回はドミニカ共和国最大の職業訓練機構であるINFOTEPと協働でアロマ抽出・制作に関する人材

育成講座を開催する計画だった。数か月かけて準備を行い、万全の状態で臨んだものの、直前に最大の難関が待ち受けていた。それはエタノールの調達であった。

エタノールはハーブや植物から抽出した精油をブレンドして実際のアロマ製品を作る際に不可欠であり、ワークショップの成功のために欠かせない薬品であった。しかし日本では薬局で簡単に手に入るエタノールは、ドミニカ共和国ではどこを探しても見つからない。理由を調べてみると、近年発生したエタノール摂取による中毒事故の影響で売買に関する規制が厳しくなっているということであった。JICAスタッフとINFOTEPの職員が連日連絡を取り合い、ようやく見つかったのは低濃度のエタノールを含む洗浄液。市場にはこれしかなかった。

「成功するか全くわからないが、これでやるしかない」と覚悟を決めワークショップが始まった。するとそこに救世主が現れた。ワークショップ受講生でINFOTEP講師の女性が「規制強化前に入手したエタノールが自宅にあるかも」と探してくれ、奇跡的に高濃度のエタノールを入手することができた。我々日本人スタッフは人と人のつながりを大切にするドミニカ共和国の人々の親身な協力に心から感謝し、また制度や文化の違いを乗り越える「現場力」の重要性を改めて認識した。

・香りがつなぐ未来

瀬間さんの挑戦は、香りという目に見えないものを通じて、人と人、文化と文化をつなぐ架け橋となった。天然由来の香りが持つ力、そしてそれを現地の資源と人々の協力で形にしていくプロセスは、まさにArtist in Projectの共創精神そのものだ。

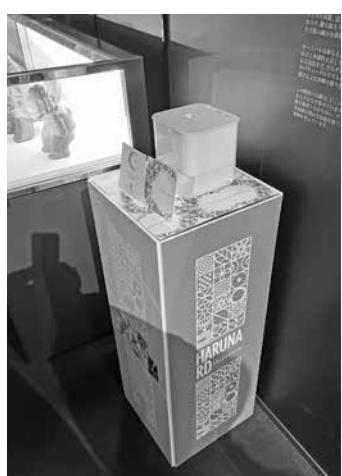


写真2 大阪・関西万博ドミニカ共和国パビリオンにて「Haruna RD」の展示

瀬間さんはその後、駐日ドミニカ共和国大使館とJICA本部との連携により、大阪・関西万博においてシゲネチャーフレグランス「Haruna RD（※ RDはRepública Dominicanaの略称）」を制作・発表。大阪・関西万博のドミニカ共和国ナショナルデーにも招待され、各要人に Haruna RD を説明した。Haruna RD は公式に販売も開始しており（文末の参考資料を参照）、ドミニカ共和国と日本を結ぶアーティストとして活躍の幅を広げている。

文化をまと 一和チャカバーナ誕生秘話

2025年、大阪・関西万博のドミニカ共和国パビリオンで話題を呼んだ「和チャカバーナ」。日本の着物とドミニカ共和国の伝統的なチャカバーナを融合させた「和チャカバーナ」は、「責任ある服選び」を推進する持続可能なファッショ（サステナブルファッショ）ンを代表する衣服として世界に発信された。ファストファッショが席巻する世の中において、着物やチャカバーナのような伝統服は決して簡単に捨てられることなく、世代を超えて受け継がれることもある。そのような伝統服を掛け合わせた新たなファッショはどのように誕生したのだろうか。

・言葉だけが先行した「和チャカバーナ」

そのアイデアが生まれたのは、2023年11月。パリコレモデル、俳優、ファッショプランナー、写真家、靴磨き師など多数の肩書を持つ“服の旅人”谷裕介さんがドミニカ共和国を訪れた際のことだった。日本とドミニカ共和国の服飾文化を融合させた革新的なファッショ「和チャカバーナ」という響きは、谷さん、ドミニカ共和国のファッショ関係者、特にドミニカ共和国チャカバーナ協会（ACHADOM）、そしてJICAの関係者の間で共通のイメージとして語られた。

しかし、谷さんのArtist in Projectの活動の中心は農業と保健セクターにおけるユニフォーム制作であり、このユニフォーム制作に滞在中も、帰国後も没頭した。「和チャカバーナ」は具体化されることなく「和チャカバーナ」という言葉だけが呪文のように繰り返されていた。

・草木染が導いたデザインの閃き

時が動いたのは2024年10月。サントドミンゴエステ市にて瀬間春菜さんとACHADOMによる「チャカバーナ草木染ワークショップ」が開催された。そこでACHADOMのラモン会長が着ていた黒いチャカバーナにポイントとしてヒョウ柄をあしらったデザインを

見た瞬間、私の中でインスピレーションが湧いた。突如、和チャカバーナの具体的なデザインが頭に浮かんだのである。日本の23時半、遅いかな、と少しとまどいつつ、ラモン会長の写真を谷さんに送り、電話をかけた。

坂口 「谷さん、遅くにごめん」

谷さん「あ、はい、どうしました？」

坂口 「今、目の前にACHADOMのラモンさんが居て、今送った写真のチャカバーナを着ているんだけど、このヒョウ柄のところに着物をあてたら、和チャカバーナになると思わない？」

谷さん「アリですね。できると思います。着物の生地でチャカバーナを作るのではなく、チャカバーナのポイントポイントに着物を差し込んでいくわけですね」

坂口 「そう。おそらくこれが最もわかりやすく、制作もしやすい和チャカバーナになるかな」

谷さん「来週のドミニカ共和国渡航時に着物の端切れ、持っていきます！」

谷さんは、端切れの選定に強いこだわりを持って対応した。

和チャカバーナをイメージするうえで、単なる着物の端切れでは実現できない点があった。チャカバーナは左右対称の組み合わせを特徴とするため、端切れであってもある程度の面積が必要だった。谷さんは、この条件を満たすために端切れを選ぶ作業に特に意識を注いだ。それは、和チャカバーナを完成させるうえで欠かせないこだわりだった。

そして、その端切れは高名なデザイナーTony Boga氏の手に渡り、襟や袖、ポケットの刺しゅうなど、目立つポイントに着物をあしらった世界初の「和チャ



写真3 大阪・関西万博会場における和チャカバーナの展示と瀬間さん(左)、谷さん(中央)

カバーナ」が誕生。

谷さんが身にまとったその一着は、まさに谷さんとJICAで唱えている「サステイナブルファッション」を象徴するものであり、また開発と文化の交差点に立つ日・ドミニカ共和国両国のアーティストとJICAスタッフの連携によって生まれたものだった。

谷さんはこう語る。「チャカバーナと着物は、全く異なる国や文化のもとで育まれた伝統服です。しかし、デザインを通じて両者の共通項を発見し、融合させることで、新たな伝統服として発信することができました。素材だけでなく、文化としても伝統を継承できる和チャカバーナは、本当に魅力的な存在だと思います」。

・国際協力の新たな可能性

この出来事は、国際協力における文化活動の意義を改めて示し、日本とドミニカ共和国のアーティスト同士を結び、社会的価値を生む創造的なプロジェクトの結節点として、JICAスタッフが果たすプロデューサー、クリエーターとしての役割が明確になった瞬間だったと感じている。JICA職員は技術協力、資金協力等の事業を通じて、開発課題の解決に向けたプロデューサーとしての能力を培い、役割を發揮する。それだけでなく、現地で培った様々なネットワークや知識が、開発、文化に限らず様々な国を超えた共創を行っていくうえでの礎になっていくのだろう。

和チャカバーナはチャカバーナ職人たちの創作欲に火をつけ、約20着の異なるデザインが誕生した。これらはスペイン文化センターとの連携を通じて、世界遺産になっているサントドミンゴ旧市街にて、和チャカバーナ展示会・ファッションショー、ミスインターナショナル・ドミニカ共和国代表Miyuki Cruzさんとのトークセッション、さらに「和チャカバーナの唄」の披露を行うことができた。また、和チャカバーナを着てテレビ番組に出演した際、進行台本があったにもかかわらず、それを無視してテレビ論説員から「和チャカバーナ」に関する質問攻めにあい、もっぱら和チャカバーナの話で盛り上がった。

ちょっとした発想の転換、あるいは発想の統合によって生み出された衣服が、既に大阪・関西万博を通じて数百万人の目に触れることになった。それだけではなく、ドミニカ共和国貿易振興機構(ProDOMINICANA)の代表的輸出品カタログや、ドミニカ共和国ファッションウィークのカタログにも掲載され、わずか1年の間にドミニカ共和国を代表する

ファッションとして位置付けられることになった。工業化を推進していきたいドミニカ共和国にとって、和チャカバーナは自国の優秀な職人たちをさらに世界の舞台に押し上げ、また将来的には雇用の増加にもつながっていく可能性がある、大きな可能性を秘めた産業となりつつある。そして和チャカバーナの成功は、ACHADOM にとっては、Afro-Chacabana や Indian-Chacabana など、世界各国の伝統服との融合へと広がっていく可能性を秘めている。

文化とサステナビリティを入り口にした「和チャカバーナ」の展開は、このように産業振興・雇用創出に結びつき、まさに開発の王道に近づきつつある。さらに JICA が全く広報のコストをかけずとも、自走的に様々な場所で日本・JICA を宣伝いただいている、という点も特筆点と言えるだろう。



写真4 ACHADOM 会長と一緒に出演したドミニカ共和国テレビ局 RNN 番組『En 3 Puntos』

共感革命は、現場から始まる

Artist in Project は、共創と革新を進めるための新規事業だった。現場では、スタッフが駆け巡り、脳みそを柔らかくしながらアイデアを練り、ナショナルスタッフはネットワークとリーダーシップを最大限に發揮しながら、ひとつひとつの実証事業に大きな情熱を注いだ。本事業にルールはない。感性と創造力をつなぎ合わせて、予測不能な中でも最大限に愉しみながら、アイデアを形にし、各々の成果を言語化・映像化していった。その結果、当初の期待を大きく上回る成果が生まれた。

今回記載した「和チャカバーナ」や大阪・関西万博のエピソードは、Artist in Project のスピノフ的な性格の活動であるが、下記「参考資料」に掲載している報告書やエピソード集に記されたこれらの経験は、今後の国際協力におけるアーティスト参加の可能性を示す貴重な財産となるだろう。

芸術・文化と開発の交差点に立ち、共感を媒介し、異なる価値観を結びつける——JICA スタッフは、まるで Cross Pollination を促す働き蜂のように、新たな国際協力の形を創り出している。

そして、この物語は、まだ始まったばかりだ。

日本発の Artist in Project、この共感の輪が世界に拡がっていくことを心より祈念している。



写真5 和チャカバーナデザイナーと共に作曲した「和チャカバーナの唄」お披露目

参考資料

Artist in Project ホームページ : <https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/aip.html>

瀬間春菜さんの報告書 : https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/_icsFiles/afieldfile/2024/11/21/202411190011.2101.pdf

瀬間春菜「和束の香り」 : <https://www.youtube.com/watch?v=k6MsSMUxRM>

谷裕介さんの報告書 : https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/_icsFiles/afieldfile/2024/11/11/2024.11.110001_3.pdf

谷裕介「服の旅人」 : <https://www.youtube.com/watch?v=NlIFHtOOIMg>
HARUNA RD の販売サイト : <https://harunasema.stores.jp/items/68cb547cd9e28d75a9631b5b>

INFOTEP : <https://www.infotep.gob.do/>

ProDOMINICANA : <https://prodominicana.gob.do/en>

World Bon Bon Project : <https://www.worldbonbon.com/>

(さかぐち こうた 国際協力機構[JICA]ドミニカ共和国事務所／ハイチ支所 所長)